



# 築理会 会報

2024 Autumn vol.74

東京理科大学工学部建築学科校友会

国立科学博物館日本館中央ホール 撮影協力:国立科学博物館

## CONTENTS

2024年度 築理会総会報告

2P 学生会員制度創設、Web名簿もスタートへ

3P 2024年11月からWeb名簿がスタートします！

4P 対談 会長と学生が議論「学生会員って何？」

6P 金町のいま

イベント用の机を研究室横断で製作  
「交差」をコンセプトに19冊目のりぼん編集

7P 同窓生のいま 戸梶大氏（1996年卒）

「思い」をつないで  
～墨田区における公共施設マネジメントの取り組みを中心に

## INFORMATION

- ・第19回ホームカミングデー 11月24日開催
- ・学生と卒業生交流イベント  
「先輩と語る2024」 11月23日開催
- ・2025年 築理会新年会 2025年1月23日開催

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebook等で配信しています。  
築理会活動へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたら  
お寄せください。 [chikurikai@gmail.com](mailto:chikurikai@gmail.com)

「彩りのドーム」：坂田 紫穂乃（建築学科3年 写真部）

# 2024年度 築理会総会報告

## 学生会員制度創設、Web名簿もスタートへ

5月25日土曜日、東京理科大学神楽坂校舎1号館17階講堂（Zoom併用）で2024年度の築理会総会が行われた。オンラインを含めて41人の校友会会員が参加、会の成長と発展を支えるための学生会員制度の創設が承認され、Web名簿システムも秋からのスタートを目指して本格的に動き出した。

今年の総会の目玉である学生会員制度の創設は満場一致で承認された。学生会員制度は築理会のさらなる発展を支えるため、建築学科との共同宣言の一環として導入されるものであり、主たる目的は以下の3つとなる。

- ① 築理会（卒業生）と在学生の更なる交流を促進する。
- ② 在学中に築理会活動を知り参加することで、卒業後の会への一層の参画を促す。
- ③ 秋から運用開始予定のWeb名簿（本人承諾の内容のみ公開）の閲覧など、卒業生の情報の提供を行う。

同時に会員区分に学生会員を加える会則改定も成立した。

2024年度の活動計画では、学生会員制度の導入に伴い、学科との連携をより一層深めるとともに、在学生にも築理会活動への参加を促すこと、クラウド化した会員情報データベースの個人入力を呼びかけ、会員情報の再構築を目指すとともに、秋よりWeb名簿の運用を開始する予定であることなどの方針が打ち出された。

### 前年度決算は予算に対して20万円の赤字に

前年度2023年度の予算は、毎年安定しない会費納入のなか、寄付金を多く呼びかけることで全体収入を2022年度比42万円増の220万円としていたが、結果として総収入は予算に対して44万円の減収となった。寄付金収入は22年度実績より約30万円上回ったが、会費収入は50万円の減収となった。支出を含めたトータルの収支は、予算に対して20万9099円の赤字となった。

2024年度の予算は、特別予算支出として、Web名簿関連と学生会員創設に伴うデータ移行費として約30万円を計上。会報誌の発送費などが上昇して支出が増加

する一方、現状の会費収入は低く、かつ不安定ななか、今回の予算案では22年度の収入実績（会費+寄付金で160万円）で収入予算を組み、承認された。

24年度は、会の活性化や事務作業の外注、また学生会員制度の創設に伴う学生支援などのためにも、毎年どのくらいの収入が必要なのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを、会員の知恵を絞って具体的に議論していく1年にしていく方針だ。

総会に続いて1996年卒の戸梶大さんが『「思い」をつないでー墨田区における公共施設マネジメントの取り組みを中心にー』と題する記念講演を行った（講演の概要は7ページに掲載）。

### 2024年度の活動計画

1. Web名簿システムの運用を開始する
2. 事務局作業の一部について外部委託を検討する
3. 会費納入を広く呼びかけ、また会費納入方法の検討を行う。財務の安定化を図るとともに、活発な会員活動への支援体制を築く
4. 情報広報委員会は会報誌（春・秋）・ホームページ・FaceBookなども利用して会員の輪を広げてゆく。休止中のメルマガの再開を目指す。また、会員の活動発表の場としてフューチャーフォーラムを開催する
5. 活性化委員会は、各種イベント（HCD、新年会等）に加え、地域会や企業内の会員活動を顕在化して支援していく。また会員のグループ活動なども広めていく
6. 学科連携委員会は、昨年採択した大学との「共同宣言」をもとに、学生会員制度の周知や軌道に乗っているりぼん支援、OB・OG交流会「先輩と語る」などに加えて、新しい企画や社会人コースとの連携なども模索する
7. 昨年立ち上げた、JIA新宿地域会共催の学生コンペを継続開催する

鋼管トップ・プレートジョイント工法 エクス・ティー・ピー 特許取得 第5702410号

# ECS-TP

鉄骨構造物に革命を。  
杭と柱の一体化。

株式会社 三誠  
SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp  
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

## エア-断震住宅

株式会社 三誠AIR断震システム  
http://www.airdانشin.jp/

### 究極の地震対策住宅

国土交通大臣認定取得  
国住指第2036号



①通常時  
地震センサーが常にゆれを監視しています。

②地震発生時  
地震センサーが一定以上の地震波を検出すると即時にエア-ダンパーから空気が送り込まれ家を浮かし、揺れを断ちます。

大地震が来ても大丈夫  
震度7の揺れを1/30に軽減。『エア-断震住宅』なら、毎日安心して暮らせます。

# 2024年11月1日からWeb名簿システムがスタートします！

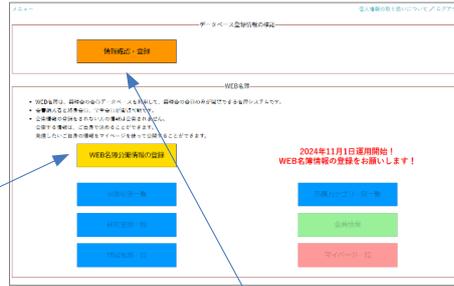
Web名簿システムは、会員のみが利用できるシステムです。利用に同意した会員が、同意した会員の情報を閲覧できるシステムであり、同意していない会員の情報は一切公開されません。卒業年や研究室などで検索が可能です。

## 会員データベース ログイン画面 【築理会HPの「会員情報」からログインできます】



① ログインしてください。

会員コードとパスワードがわからない方は、問い合わせフォームでメールにてお問い合わせください！



② 個人情報を確認・修正してください。

③ Web名簿システムの画面に移ります。



④ この画面で名簿に公開する情報を選択します。

■ 簡単な情報や顔写真も登録できます。

■ マイページ (PDF画像) も登録できます。

⑤ 公開情報の確認画面の最下部のこのボタンから、実際に公開される画像を確認します。

2024年9月10日現在で、会員DB入力者は約300人、Web名簿システム同意者は約90人です。皆さまの入力、参加を切に希望しております。

**石橋 敦之**  
(イシバシ アツユキ)  
1981年(16期)I部  
冲塩  
1983年修士修了  
冲塩

住所：176-0002  
練馬区板谷6-33-12-305

電話：090-2543-2180  
EMAIL：atuyuki.ishibashi@gmail.com  
所属1：(建築設計) 株式会社環境デザイン  
所属2：(建築設計) (有)イシバシ・スペース・デザイ...  
所属3：  
自由欄：  
都市環境デザイン；https://www.cc-design.net/





安井建築設計事務所 東京事務所 (2024)

人やまちを元気にする

## 安井建築設計事務所

代表取締役社長 CEO 佐野 吉彦 (14期 1979)

東京事務所を神田美土代町に移転いたしました。

築理会会長

石橋 敦之

(第16期1981年卒)

りぼん2024実行委員会

千葉 七花

(第58期2023年卒)

りぼん2024実行委員会

神尾 凜也

(第58期2023年卒)



築理会副会長  
安達 功  
(第21期1986年卒)

2024年8月に、築理会の運営と大学院生で、学生会員制度の目的や今後の展開などを議論した。写真の左から順に石橋敦之会長、安達功副会長、東京理科大学大学院の千葉七花さん、神尾凜也さん

2024年度から新たに始まった「学生会員」と「Web名簿システム」。

どちらも石橋敦之会長肝煎りの新制度で、「学生と卒業生の垣根をなくす」狙いがあるという。大学院生の神尾凜也さんと千葉七花さんが、石橋会長と新制度の在り方や今後の展開を議論した。

—— 最初に「学生会員」制度の概要を教えてください。

**石橋会長：**2024年5月の総会で、会則の改定を会員の皆さんに示しました。これまでは「普通会员」と「特別会員」だった会員区分に、「学生会員」を付け加えました。工学部建築学科の学生と夜間主社会人コースの学生、他大学から東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻に入学した学生を、在学中から会員に迎える制度です。ただし在学中は会費を支払う必要はありません。

学生会員は、理窓会や他学科のOBOG会の一部で既に導入している制度です。築理会では約3年前に導入の検討を始めました。検討の中で問題視したのは、在学中には当たり前のように入っていた情報などが、社会人になった途端にぷつりと切れてしまうこと。個人

が築いた横のつながりは残るでしょうが、ここをもう少しシームレスにしたい、というのが制度の狙いです。会員同士の交流や活動の活性化などは、これに付随するメリットだと考えています。

こうした思いから、学生会員制度と一緒にWeb名簿システムの導入も始めました。築理会の会員は現在約8500人で、最年長は80歳くらい。このうち住所がわかっている会員は約5000人で、会費を払ってくれている会員は約200人です。Web名簿システムは、もちろん運営側の作業負担を減らすことが目的の1つですが、重要なのは「学生と社会人をシームレスにつなぐ」ことです。学生と社会人が、相互に情報共有できる土台になります。実際に何ができるの？という点はこれから議論を深めていけばよい。

**神尾さん：**築理会を単にOBOG会と位置付けるのではなく、学生を巻き込んだシームレスな団体にしていこうという狙い、そしてそこにWeb名簿システムを役立てたり、運営側の負担を減らそうという目的があるのは分かりました。しかし、学生が会員になるメリットは何でしょうか。

**石橋会長：**これまで、学生と卒業生が交流する機会は交流イベントの「先輩と語る」くらいしかなかった。これも学生が会員ではなかったため、どちらかという与学生向けのサービスだった。これからは、会員同士



学生会員制度の概要を説明する、石橋会長。ポイントは「学生と社会人をシームレスにつなぐ」だとする

が交流できるようなイベントとして、会員向けに街歩きなどを企画していければいいと思う。

**神尾さん：**学生と社会人が交流する機会を多くするだけでなく、学生が卒業生を巻き込んだイベントを企画したり、情報を発信したりできる制度になったということですね。学生にとっては今すぐ効果を実感できるというより、数年後にメリットを感じる制度のように感じました。

**石橋会長：**そうですね。20年後くらいに効果が出ると良いかと、長い目で考えています。

—— **新制度や新システムの効果が出るのは時間がかかるとしても、学生会員向けに築理会を周知したり活用策を提示したりする必要がありそうです。**

**千葉さん：**Web名簿はすぐにも活用できると感じました。今ちょうど就活関係で、OBOGに話を聞きたいと考えていたところです。Webで検索出来るのはすごく嬉しいです。

他にも、2年生や3年生はアルバイト探しに活用できるかもしれません。実体験を通して建築を学びたいという意欲的な後輩は多くいます。実務に興味を持った学生と、人手が欲しいOBOGをマッチングできる仕組みがあると、学生の利用率は高まると思います。

**神尾さん：**少し前にリノベーションしようと考え、OBOGを探す後輩がいました。研究室の先生を頼って探していましたが、Web名簿があればそれを伝手にできたかもしれないと思いました。学生が社会を巻き込んで何か活動しようとするときに、活用できる場面が多いかもしれません。

ただ一方で、話を聞きたいと思った時に、「本当にこの人と話して大丈夫なのかな？」という不安や戸惑いがハードルになる可能性があります。

**事務局：**赤の他人よりは、同じ大学で学んだ人の方がハードルは低いでしょうが、確かに不安はありますよね。話を聞くにはリアルで会うのが1番良いのですが、新型コロナウイルス禍でリモートも普及しました。デジタルを活用する場合は、チャットなどでサポートする仕組みを整える必要があるかもしれません。

学生会員やWeb名簿はあくまで「第一歩」。今後は展開するイベントやサービスに応じた仕組みづくりも必要になりますね。

**石橋会長：**コツコツと実績を積み上げながら、検討を進めていくしかないでしょうね。

—— **スモールスタートで取り組むために、まず1つアイデアを実現したいですね。**

**石橋会長：**去年からの継続モノだと、日本建築家協会



2023年に東京理科大学を卒業した神尾凜也さん。現在は同大学大学院工学研究科建築学専攻で、栢木まどか准教授の研究室に所属している。リボン2024実行委員会の委員長



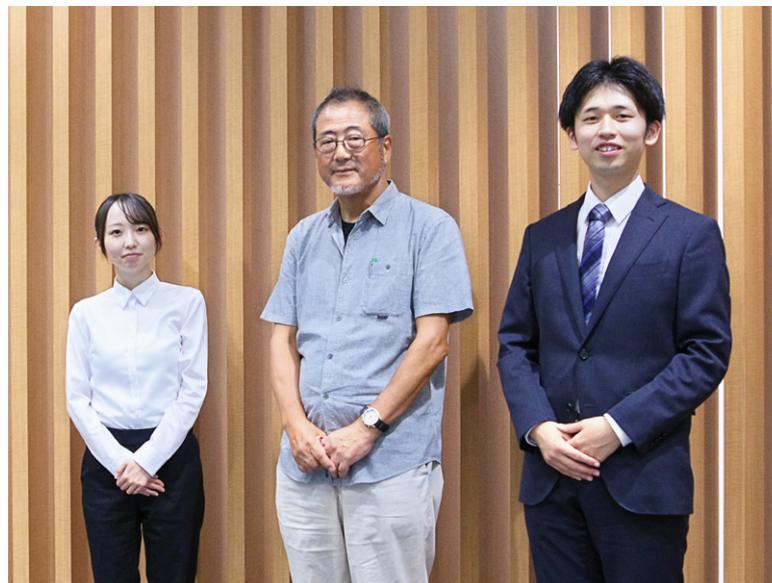
2023年に東京理科大学を卒業した千葉七花さん。現在は同大学大学院工学研究科建築学専攻で、熊谷亮平准教授の研究室に所属している。リボン2024実行委員会の築理会担当

(JIA) 関東甲信越支部新宿地域会と築理会が共催する「新宿みらいアイデアコンペティション」があります。今年は2025年3月に案を募集する予定です。

**千葉さん：**コンペは嬉しいです。例えば案を出す前に、大学構内でOBOGからアドバイスをもらえるような場をセッティングできれば、交流の促進にもつながります。集まった案を築理会のホームページで公開すれば、興味を持つ人が増えていくかもしれません。

**神尾さん：**特に意匠系の人は喜ぶ人が多いと思います。

**石橋会長：**良いアイデアですね。構造や設備の会員向けにも展開できる交流の場も作っていききたいですね。



石橋会長と神尾さん、千葉さんの3人による議論は1時間半に及んだ

千葉七花 熊谷研究室修士1年生

## イベント用の机を 研究室横断で製作

熊谷研と栢木研を中心にDIYに興味をもつ学生が集まり、UR赤羽台団地でのワークショップで使用する机を製作しました。

このプロジェクトはUR赤羽台団地を、もっと学生が自然に活動を行い、親しみのある使いやすい場所にするという目的から始まりました。昨年の団地学生ワークショップでは、学生の作業用机をレンタルで手配したのですが、今後も同様のワークショップやイベントを行いやすくするためには、机を使いたいときに使えることが望ましく、常に置いてあり、気軽に使える机を製作することになりました。

最大のポイントは、机をEVなしで4～5階まで狭い階段室で運び上げる必要があるということでした。そこで、搬入のことも考え、組み立て式の机としました。机の製作には計11人の学生と4人の教員が携わり、約半年の期間をかけて、合計8台の机が完成しました。それぞれ設計者が異なり、様々な工夫が詰まった個性ある机が完成。初めて家具を製作する生徒がほとんどでしたが、研究室の垣根を越えて、協力しながら楽しく取り組むことができました。



約半年をかけて合計8台の机を製作



研究室の垣根を越えて11人の学生が協力

神尾凜也 りぼん実行委員長/栢木研究室修士1年生

## 「交差」をコンセプトに 19冊目のりぼん編集中

りぼん実行委員会は、年度毎に工学部建築学科の学生の設計作品集である“りぼん”を作成する学生の有志団体で、今年で活動19年目になります。これまでも築理会総会などで校友会の活用に関わる事がありましたが、今回は学生会員制度導入の先駆けとして、りぼんの最新状況を執筆させていただく事になりました。

りぼんには、学部2年生から修士2年生の課題作品に加え、学部と修士、社会人コースの卒業設計の作品を掲載しています。学生は今後の設計の参考にするために、社会人の方は建築学科の今を知るために買われる事が多いです。また、毎年、りぼんは冊子のコンセプトを考え、特別企画としてその時の情勢にあった記事を作成しております。新型コロナウイルス禍や人口減少などによって建築業界も徐々に変化しており、われわれもIT関連などこれまで接点の少なかった分野の方々と関わる機会が増えております。こういった背景もあり、本年度は本書を読む学生が社会人やこれまで接点の少なかった領域の方と交わる第一歩になってほしいという願いを込めて“交差”をコンセプトにし、学生と社会人が思いのままに対談する特別企画を掲載します。

学生会員制度も学生と社会人の関わりを深めることを目的としており、学生と築理会の考え方が近く、今後は互いの境目が無くなっていくのではないかと感じます。



りぼん実行委員会の面々



2024年5月25日に開催された「2024年度築理会総会」。この記念講演に、1996年卒の戸梶氏が登壇した。タイトルは『「思い」をつないで』。左が講演資料の表紙で、下が戸梶氏

プレゼンター

同窓生のいま

戸梶大氏 (1996年卒) / 墨田区役所都市計画部建築指導課長

2024年度築理会総会 講演会

# 「思い」をつないで

— 墨田区における公共施設マネジメントの取組みを中心に —



自治体の技術職はどんなイメージですか？自治体の「しごと」に魅力を感じますか？——。築理会が2024年5月25日に開催した「2024年度総会」。この記念講演に登壇した戸梶大氏は、冒頭でこう問いかけた。

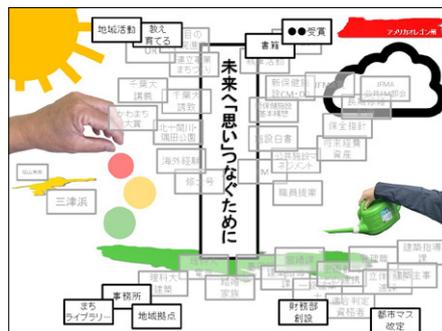
戸梶氏は1996年に東京理科大学を卒業後、墨田区役所へ入庁。技術職として、建築指導課や営繕課、企画経営室などで約30年間キャリアを積んだ。講演の中で戸梶氏が挙げた実績は、「東武鉄道伊勢崎線（とうきょうスカイツリー駅付近）連続立体交差事業」と「北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業」、「公共施設マネジメントの取組み」の3つだ。

1つ目は墨田区が東武鉄道と協力して施行する事業で、東武線とうきょうスカイツリー駅付近の約900mにわたって鉄道を高架化するというもの。2つ目は2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた事業だ。東京スカイツリーから浅草間の公園や道路、高架下、水辺を一体的に整備し、活性化を目指したまちづくりだった。どちらも区民の生活向上などに直結するものだが、「自治体の仕事は表に出ないため、関係者以外はイメージしにくい」と戸梶氏は語る。

3つ目の「公共施設マネジメントの取組み」は、自治体が所有したり借り上げたりしている公共施設を管理し、利活用する試みだ。他2つ以上に緑の下力持

ちな側面が大きい。戸梶氏はこの取組みに2004年から17年間従事した。耐震性能や老朽化の状況、施設稼働率を調べて墨田区内の施設総量を見直す他、施設データベースの整備や保全システムの導入を進めた。建物保全に向けて与条件整理から設計、修繕工事につながる仕組みを整えた。2023年には日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）主催の第18回 JFMA 賞で、「優秀ファシリティマネジメント賞」を受賞した。

講演の最後に戸梶氏は「大学で学ぶ建築はごく一部の領域だ。常に旺盛な好奇心を持ち、人とのつながりを築くうちに、建築分野で活動できる領域が広がっていく。時には自分に見合った仕事を探すのではなく、自分を仕事に合わせるマインドも大切だ」と語った。



「好奇心」と「人のつながり」は、活動領域を広げる糧になる。戸梶氏は木の成長にたとえて、自らのキャリアを振り返る

# 第19回 東京理科大学 ホームカミングデー

卒業生と在学生が集う日、理大祭と同時開催。

11月24日(日)

11:00~16:00 (受付10:30~)

野田キャンパス

ともに楽しもう  
ホームカミングデーと  
理大祭

## 第19回 東京理科大学ホームカミングデー

(東京理科大・理窓会共催)

「ともに楽しもうホームカミングデーと理大祭」

2024年11月24日(日) 11:00 ~ 16:00

野田キャンパス (今年は理大祭と同時開催)

ホームページをご確認ください。

<https://risoukai.com/activity/homecomingday/2024/>

卒業50・40・30・20・10周年記念祝賀懇親会も

開催されます。



## 築理会・野田建築会・建築企業合同の合同展示：

野田キャンパス7号館4階7404ゼミ室

築理会は2023年度工学部建築学科の卒業設計「築理会賞」受賞者の図面・模型の展示を行います。

2023年度工学部建築学科の卒業設計に、OB会である【築理会】より、毎年、築理会審査委員により選定する「築理会賞」を進呈しています。今年度の名誉ある「築理会賞」受賞者は2名です。

①鶴岡 千里君「旅人の足跡」、②高橋 武雄君「ステーションスクエアと祈りの場 都会のお寺を再び人の集まる場所にするための一つの提案」。

会場内で2名の卒業設計の設計パネル(一部)・模型・パース等を展示しています。卒業生の企画力、提案力、デザイン力、表現力を楽しんでください。

## 学生と卒業生交流イベント 「先輩と語る2024」を開催します。

▶11月23日(土) 葛飾キャンパス

▶「10年後のわたし」をテーマに、卒業後10年目のOBOGが中心となって、学生たちに職場やそれぞれの業界の仕事内容などをリアルに伝える。

## 2025年 築理会・野田建築会 合同新年会を開催します。

▶2025年1月23日(木) 18:00 ~ 20:00  
ポルタ神楽坂6F 理窓会倶楽部

▶楽しい新年会となるよう企画を検討します。

詳細はホームページに掲載します。

ぜひ皆さま、ご予定ください。

## 新任退任教職員紹介

### 2024年4月新任の先生



葉 凱 嘱託助教(加藤雅樹研究室)

建築構造・材料

2014 B.Eng/ Xihua University

2022 名古屋大学大学院博士課程 修了



鳥海 沙織 嘱託補手(インターンシップ担当)

2018 東京理科大学工学部第二部建築学科卒業

2021 東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻  
修士課程修了

2021-2023 設計事務所勤務



廣田 雄磨 嘱託補手(熊谷研究室)

2021 東京理科大学工学研究科建築学専攻

修士課程修了

2021-2023 Fumihiko Sano Studio 勤務

2024 東京理科大学工学部建築学科嘱託補手

### 2024年3月退任の先生

金沢 将: 嘱託補手(熊谷研究室)

井黒 彬: 嘱託補手(インターンシップ担当)

## 寄付への感謝と今後のご支援のお願い

親愛なる同窓生の皆様

2023年度、60名以上の同窓生の皆様から多大なるご寄付を賜り、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援により、同窓会活動をさらに充実させることができました。いただいたご寄付は、デジタル名簿、築理会賞、りぼんほか学生への支援、築理会イベント等多様な活動に活用させていただきました。

今後も、同窓会活動を通じて皆様との絆を深め、母校の発展に寄与してまいりたいと考えております。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集長: 安達 功

編集委員: 中東 壮史、近藤 剛啓、飯山 道久、栢木 まどか、大村 総一郎、山岸 隆

編集後記: 中東 壮史

2024年度は「学生会員」と「Web名簿」がスタートし、これからの築理会にとって大きな変革の節目の年になりました。立役者である石橋敦之会長が繰り返しお話しなさるように、新制度の効果が表れるには少し長い期間が必要です。確かに現状だけを見ると、会員数の減少や制度作りのための出資などマイナスの面が目につくかもしれません。しかし、人口減やデジタル化などに対応した「新たな同窓生のつながり方」を模索する試みは、築理会の将来にプラスの影響をもたらすように感じます。新制度の活用策を含め、会員の皆さんからのフィードバックをお待ちしています。